

もの言う牧師のエッセー 第184話

人を大切にする

②「駿河屋再出発」

有機農産物など味や健康にこだわる商品を扱い、北米を中心に今や400店舗を展開し、年間売上高1兆円を超えるホール・フーズ・マーケットが、まだ1カ所しか店がなかった1981年のこと。地元テキサス州オースティンを洪水が見舞い、店は2メートルの床上浸水。設備や商品もダメになり、創業者のジョン・マッキー氏と社員は涙を浮かべ、立ち尽くすしかなかったという。

だがその時、予想外のことが起きた。大勢の客や近所の人々がバケツやモップを手に集まり、「さあ、仕事に取りかかろう。落ち込むのはこの辺にして掃除を始めよう。」と声を掛け合い店の掃除や修理を始めたのだ。「なぜそこまで…？」と尋ねると、「ホールフーズは私たちにとって重要なんだ」「この店がなかったら、オースティンに住みたいとは思わないかもしれない」と。今やウォレン・バフェットと並び、“最も成功したクリスチャン経営者”と称されるマッキー氏が、社会的良心に立った意識の高い会社を目指すべく奮い立ったのがこの時であった。

さて、昨年経営破綻した和歌山市の老舗和菓子メーカー「総本家駿河屋」が今春開店し、名物“本ノ字饅頭”を買い求める人たちが長蛇の列をつくる盛況ぶりだったが、ここまで来るためにも多くの人々の情熱があった。同社の組合員らと彼らが集めた1万人以上の署名、同市内の企業たちの賛同、地元政財界や市立博物館の学芸員たちなどなど。「何百年と続く老舗が苦労や工夫を重ねた歴史が途絶えるのは寂しかった。新たに開店する日だけに、この感激をどうしても店の方と一緒に味わいたかった」と喜ぶ常連客。「今回のことで、こんなに愛されていたのかと実感した。『お客さま目線』を大切に、菓子作りの原点に立ち返って期待に応えていきたい」と語る岡本良太社長。これは正に

「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。」

1ヨハネの手紙3章11節、

と口を酸っぱくして聖書が言う通りだ。奇跡を起こせるのは、政府や社会システム、或いは企業の如きものではなく、地域に根ざす一人ひとりの力である。神である救い主キリストは我々人類の再出発のために、地域である地上に降りて来られ、十字架にまでかかって下さった。彼を信じて初めて本当に意識の高い良心的社会が生まれる。

2015-5-22

